

西尾幡豆地域のシームレスな医療、介護、福祉の連携 — 連携手帳を利用して —

小嶋 佳代子 氏

西尾幡豆地域医療を守る会
西尾市民病院 看護師
地域医療連携室 室長

要旨

超高齢社会を迎え、支援を要する高齢者が増加しており、地域包括ケアシステム構築への取り組みが進む中、病院機能において退院支援は、重要な役割を果たしている。

西尾市は高齢化率が高いことから退院支援が必要なケースが多く、医療、介護、福祉のシームレスな連携が急務として、2009年5月に市内の病院、有床診療所の実務者により、「西尾幡豆地域医療を守る会」を立ち上げ、「地域住民の方々が適切な医療、介護、福祉が受けられるように支援する」をコンセプトとして活動してきた。

地域の医療、介護、福祉がシームレスに連携するためのツールとして、連携手帳を作成し、関連施設に配布した。また、施設入所者が急病で病院に受診する際、診療がスムーズに受けられるよう、紹介状の代替的用紙として「患者情報シート」を作成した。

褥瘡対策については、西尾褥瘡研究会を発足し、定期的に褥瘡に関する学習や情報交換をしている。

これまで、地域の病院や施設の紹介、在宅での看取りに関する講演会、摂食・嚥下に関する研修会、認知症に関する研修会等を実施し、知識や技術の向上、会員相互の顔の見える関係づくり、地域医療の在り方などについて提案してきた。2013年度より、西尾幡豆地域の病院、有床診療所、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、グループホーム、包括支援センター、居宅介護支援事業所の方々に入会して頂き、組織化に至った。

1.目的

地域住民が適切な医療、介護、福祉が受けられるように支援する。

- ・地域の医療、介護、福祉に関わる人々の連携を図る。
- ・地域の医療、介護、福祉に関わる人々に学習の機会を提供する。
- ・地域住民の地域医療に関する理解を深める。

2.活動計画

- ・連携手帳の更新
- ・患者情報シートの普及
- ・西尾褥瘡研究会の開催
- ・研修会及び講演会の開催
- ・西尾幡豆地域医療を守る会の組織化

3.活動内容及び結果

(1)連携手帳の更新について

連携手帳の内容としては、病院窓口一覧、病院紹介の要望書、老人保健施設・特別養護老人ホーム窓口一覧、老健施設情報シート、特養施設情報シート、訪問看護ステーション窓口一覧、地域包括支援センター窓口一覧、居宅介護支援事業所窓口一覧、グループホーム窓口一覧、グループホーム情報シート、市内の病院や施設等の所在地図、患者情報シート、「福祉介護職員からの電話での問合せについて」など、連携担当が患者紹介時などに利用できるようにした。

窓口一覧(図1)には、各病院や事業所の住所、電話・FAX番号、メールアドレス、サービス担当区域、連携担当者の氏名など掲載し、連絡窓口がひと目でわかるようにした。

地域支援センター窓口一覧

事業所名				
サービス提供区域	ゾーン			
TEL	FAX	〒	住所	
担当職員名				

図1 窓口一覧

「病院紹介の要望書」(図2)には、病院区分、部屋・病床の構成、費用、診療科目、スタッフ数、実績、患者受け入れ条件、病院の特徴などがA4シート1枚に記載できるようにした。「老健施設情報シート」「特養施設情報シート」「グループホーム情報シート」についても、医療処置や社会的条件として受け入れ条件がわかるようにした。

病院紹介の要望書

病院名				
所在地				
診療科	内科	外科	内科	外科
診療時間				
入院料	入院料	入院料	入院料	入院料
看護料	看護料	看護料	看護料	看護料
食事料	食事料	食事料	食事料	食事料
その他				
特徴				
備考				

図2 病院紹介の要望書

2013年度の更新に際しては、担当者や施設がイメージしやすいように写真を掲載した。また、各施設の所在地を部門別に地図上に掲載した。「福祉介護職員からの電話での問合せについて」では、窓口への電話での問い合わせに対し、対応の基本的な考え方について記載している。

2013年度は、5月に更新し、西尾幡豆地域の病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、グ

ループホーム、訪問看護ステーション、包括支援センター、居宅介護支援事業所、診療所などに配布した。今後、各診療所の在宅医療や介護サービスに関する情報の掲載や、電子化を検討している。

地域の医療・介護・福祉に関する必要な情報が掲載できるように、連携手帳の内容の充実に努めたい。

(2) 患者情報シートの普及について

施設入所者が急病で病院に受診される際に紹介状の代替的用紙として「患者情報シート」(図3)を作成した。

患者情報シート

氏名	性別	生年月日	住所	電話番号	緊急連絡先
診療科	医師	看護師	薬剤師	理学療法士	作業療法士
アレルギー	既往歴	現在服薬	現在治療	現在手術	現在入院
家族構成	介護状況	生活状況	経済状況	社会状況	その他
主治医	連絡先	連絡先	連絡先	連絡先	連絡先
備考					

図3 患者情報シート

住所、生年月日、感染症、既往歴、ADL、主症状や経過等を記載し、紙面で担当医に伝えられるようにした。これまで3件使用され、診療やケアに役立っている。基本情報は、平常時に記載し、夜間など手薄な状況下での受診の際は、基本情報だけでも持参して頂きたい旨を周知している。今後も検討を重ね、スムーズな診療に繋がるよう普及に努めたい。

(3)西尾褥瘡研究会について

西尾市民病院形成外科医師を中心に西尾褥瘡研究会を2011年11月に立ち上げ、2ヶ月毎に研究会を開催し、事例検討や学習会を実施してきた。2013年11月から、地域のニーズに即した内容が提供できるよう地域の病院や施設の褥瘡対策委員会の代表者による褥瘡研究会代表者会を結成した。また、医師会の先生方にもご参加頂けるようになり、褥瘡について考え相談できる場所が提供できるようになった。今後も継続することで、地域としての取り組みができ、褥瘡患者の減少へと繋げていきたい。

(4)研修会及び講演会について

認知症研修会は、認知症認定看護師を講師に迎え、「認知症の病態と看護ケアについて」をテーマとし、2013年4月と5月に2回シリーズで実施した。2回とも100名以上の参加者で、日々、認知症患者さんへの対応に苦慮していることが伺われた。また、グループホーム部会が中心となって、2014年1月、2月、3月に3回シリーズで認知症介護研究・研修大府センター山口喜樹先生を講師に迎え、「パーソンセンタードケアの理解 ～ひもときシートとは～」をテーマとして講義して頂いた。ひもときシートを利用した事例演習も行った。その人らしさを尊重するケアの理念と方法について学んだ。受講者から施設職員へ、患者さんや家族へのケアへと繋げたい。全国各地で、認知症患者さんやご家族への取り組みが成されている中、当会としてもグループホームを中心として、地域への取り組みへと繋いでいきたいと思う。

保険者との連携「生活保護について」では、会員から多数の質問があり、2013年6月11日に市役所の福祉課担当者に講義して頂いた。しっかりと説明して頂いたが、このような問題については、組織的連携ができるような仕組みが必要だと思われる。

感染対策研修会は、地域で疥癬患者が認められた事などから、「標準予防策と疥癬」をテーマとし感染管理認定看護師を講師として2013年7月17日に開催した。参加者は、146名であった。今後も地域のニーズに合わせた内容をタイムリーに提供できるように努めたい。

当会では、毎年、定期研修会として、西尾幡豆地域の病院紹介、施設紹介、講演会などを実施してきた。2013年8月21日に宮崎医院院長の宮崎仁先生に

「あなたならできるあなたしかできない楽しい在宅医療」をテーマとして講演頂いた。在宅医療に少し限界を感じていたが元気になれたと意見を頂き、明日への糧となった講演でした。

研修会や講演会を何度も開催する中で、参加者が、病院医療関係者から施設関係者、訪問看護、居宅介護、医師会、行政、福祉関係者へと徐々に広がり、顔の見える関係ができてきている。2013年度の研修会開催状況は、表1の通りである。

月日	内 容	参加人数
H25.5.13	西尾褥瘡研究会：褥瘡症の経緯と予防の事例紹介。	33
H25.7.22	西尾褥瘡研究会：褥瘡症の予防と治療の現状。	34
H25.9.26	西尾褥瘡研究会：事例検討（5施設から報告）。	46
H25.11.28	西尾褥瘡研究会：ボジショニングについて。	42
H26.1.23	西尾褥瘡研究会：スキャンナーについて。	34
H26.3.27	西尾褥瘡研究会：褥瘡について。	31
H25.4.26	認知症研究会：認知症の病態と看護ケアについて（1回演）。	107
H25.5.17	認知症研究会：認知症の病態と看護ケアについて（2回演）。	112
H26.1.31	認知症研究会：パーソンセンタードケアの理解。	113
H26.2.28	認知症研究会：ひもときシート実践事例による事例検討。	43
H26.3.28	認知症研究会：ひもときシート事例演習 まとめ。	34
H25.6.11	保険者との連携：生活保護について（西尾市役所 福祉課）。	92
H25.7.17	感染対策研究会：「標準予防策と疥癬」。	146
H25.8.21	西尾幡豆地域医療を守る会第1回研究会：経緯報告及び講演会。 講演内容「あなたならできるあなたしかできない楽しい在宅医療」 宮崎医院 宮崎仁院長。	134
H26.2.23	研修会。	36

表1 地域医療を守る会 褥瘡研究会研修会等一覧

(5)西尾幡豆地域医療を守る会の組織化について

これまで地域での連携上の問題を解決するために、地域の病院、施設、訪問看護ステーション、グループホーム、包括支援センター、居宅介護支援事業所、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅などと会議を持ってきたが、意見の集約が難しく、解決に時間を要した。そこで、西尾幡豆地域医療を守る会への入会を呼びかけ、2013年6月より地域医療を守る会の組織化(図4)となった。2ヶ月毎に部門別会議を行い、6ヶ月毎に全体会として報告会を持つこととなった(表2)。全体会では、長寿課の方にご参加頂き、保険者との連携上の問題について話し合う事ができたが解決に至らず、今後は、保険者の方々にも定期的に参加協力頂けることになった。

現在は、会議の内容や方法も手さぐり状態であるが、組織力を生かした支援ができるよう取り組んでいきたい。

また医師会の先生方には、研修会の講師や研修会への参加、連携手帳掲載のご協力など多岐にわたって支援を頂いている。

また、西尾幡豆医師会の先生方には、関連する研修会のご案内をしている。

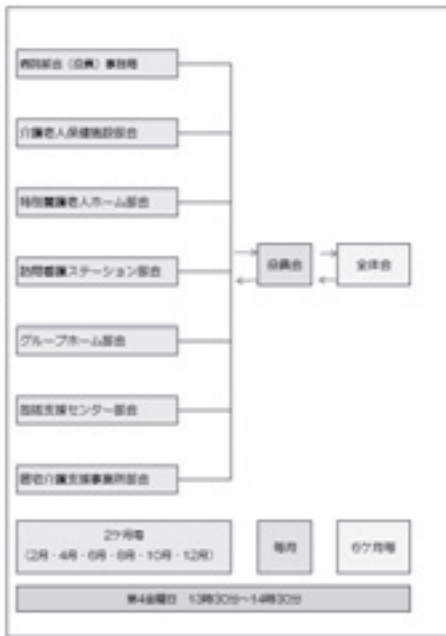


図4 西尾幡豆地域医療を守る会 組織図

会議開催日	内容	参加人数
2013.4.26	老人保健施設・特別養護老人ホームとの会議 役員会	19
2013.5.24	包括支援センター・居宅介護支援事業所との会議 役員会	44
2013.6.28	1回 部門会議 役員会	45
2013.7.26	役員会	6
2013.8.23	2回 部門会議 役員会	49
2013.9.27	役員会	6
2013.10.31	3回 部門会議 役員会	55
2013.11.28	西尾幡豆研究会：代表者会	14
2013.12.20	4回 部門会議 役員会	54
2014.1.23	西尾幡豆研究会：代表者会	12
2014.1.24	役員会	5
H26.2.7	役員会	6
2014.3.17	第1回西尾幡豆地域医療を守る会連帯協議会	45
2014.3.27	西尾幡豆研究会：代表者会	55

表2 地域医療を守る会 会議開催状況

4.おわりに

当会は、「地域住民が適切な医療、介護、福祉が受けられるように支援する」をコンセプトとして活動してきた。2013年度、地域の病院、施設、訪問看護ステーション、グループホーム、包括支援センター、居宅介護支援事業所と組織化できたことは、活動上大きな原動力となった。

今後、更に医師会や行政との連携を進め、地域包括ケアシステム構築「住み慣れた地域で安心してその人らしい生活が継続できるように支援する」に向け、一助となれるように努めたい。